

BOSS SD-1 銀ネジ

2010年12月10日(金) 18時24分18秒
テーマ: ブログ

最近機材いじりに没頭…スイッチが入ったら100%だから他の事には全く手が付かなくなるという性分…困ったものです。。。

過去に部品取りした銀ネジSD1が数台分押し入れに眠ってまして、組み上げればそれなりに使える物になるかな~と思い取り掛かってみました。

時間かかった。。。最近小さい物、近くが見えない…老眼かな…あ~ショック。。。

で、やっと昨日2台完成♪



↑写真左端からメイン、今回組んだ2台の3台がシリアルナンバー300番銀ネジSD1、右端が400番黒ネジSD1（日本製がもう1台あったはずが見つからなかった…しかもTS808のシャーシも…捨てたっぽい…泣）

どちらもなかなかのでき♪

メインとは違う出音だけどこれもいいな～♪

メインのSD1も部品見直しして、よりいい感じに修正できた♪

部品取りで持つてると、音の趣向が変わってもこういう調整ができるてまた使う気になれるから便利♪

メインのSD1。ボロボロですがいい音です。↓



そもそもSD1に興味を持ったのは私のフェイバリットギタリスト、リッチャー・サンボラが使ってるからです♪

彼の使用する機材全般(ギター、アンプ、エフェクター)ステージにしてもレコーディングにても毎回入れ代わりが激しく、

その時彼がベストと思える物をチョイスし使用しているようなのです。

そんな中20年近くステージで使い続けらてるのは唯一、エフェクターのSD1だけなのです。←一度も足元のペダルセットから外された事はない

きっと使ってる日本製のSD1は余程当たりの物なんだな~と思い、その当たりのSD1を求めて買いあさりはじめたのがそもそもそのキッカケです♪←安いしね(笑)

私今まで13、4台所有しましたが(現在は4台)どれも音と基盤の部品構成が違ってて、時に「なんてテキトーに組まれてるんだ~…」なんて思う大ハズレな個体もありました。。。。

その中で最終的に良いと思えたのが銀ネジのSD1だったのです♪

通常のSD1とはニュアンスが違い、OD1に近い太い中域が特徴で好みの音だったのです♪

それから銀ネジSD1を5つ程集め(2台はハズレ)、その内の3台のそれぞれの良いところを取りしようと1台に組み上げたのがメインのSD1です♪

BOSSのSD1は1981年2月に生産スタートし、その一か月間だけ生産された物が銀ネジでシリアル0300番のSD1になります。

SD1とはスーパーオーバードライブの略で、主にアンプの歪みをブーストするブースターとして使用されています。

音はチューブスクリーマーに似てますが、より引き締まった感じがあり好みが分かれるところです。

・現行品(台湾製)との外観上の違いは

- ①裏のラベルにMADE IN JAPANと記載。
- ②裏のラベルに「～コインネジで～」と記載。
- ③ツマミがセットネジで固定されている。
- ④蓋を銀ネジで固定。
- ⑤シャーシ幅が若干大きい。
- ⑥シリアルナンバーの0300と記載。



・内部基盤の部品構成。



電解コンデンサーのみメーカー混在。
それ以外の部品は、確認した5台とも全く同じ物で構成されてました。

この時期のBOSSの部品の管理面は素晴らしい～ホント丁寧に作られています。
OD1の後継機だったので、売り込もうと気合い入ってたんでしょうね～♪
OD1に例えると9300番に似てると思います。
OD1情報は↓

http://eu11.stripper.jp/pulcino/blog/archives/cat_boss_od1.html

OPアンプは艶ありのNEC製C4558Cで副番POY30E。
不透明のフィルムコンデンサーばかりで、現行品をMODしたかのようにグレード高い仕上がり。
右上ダイオードが現行品はその一か所だけツェナーが付けられてます。(400番以降の物)
これが歪方に大きく影響しているようです。
基盤はA基盤。(400番以降B基盤)

更にメインのSD1の基盤側配線付け根部分に配線ループが付けられてました。(6番から17番配線間の付け根部分)
これは他の銀ネジにも見たことがないので、銀ネジの中でも初期の仕様で当初設計段階ではこうなっていたのではないかと思われます。
ですがこのループがある事で固く痛い音になります。
それを理由にその後排除したのではないかと思ってます。
実際に私も排除した方が良かったので、現在もそうしてます。(通常の銀ネジと同じということ)

次に銀ネジより貴重な400番黒ネジです。
銀ネジの翌月、1981年3月の1か月間だけ製造されました。
黒ネジだけに気づかない方が多いようで、ほとんど市場に出回らず私はこの1台しか見た事ありません。

外観は黒ネジ部分以外300番と全く同じ。
基盤の部品構成もOPアンプのみ艶ありJRC製4558Dの0番台が付いているだけで、後は全く同じ、ある意味最高の組み合わせです。

OD1に例えると9900番に似てます。
ですがこの個体はパンチが無くややハズレ気味でした…貴重なのでストック。

どうやらBOSSのシリアルを調べると1981年4月製造の500番も存在するようですが、どんな感じなんでしょう～実際にあるのかな？？？

<http://www.bossarea.com/serial/sndecoder.aspx>

最後にOPアンプについてですが、私がSD1で確認できたのは

・JRC製艶あり4558Dの0、1、2000番台

- ・NEC製艶ありC4558C
- ・NEC製艶無しC4558C
- ・三菱製型番忘れ
- ・JRC製艶無し4558D
- ・JRC製艶無し4558DD

でした。

私はJRC4558DよりC4558Cの方が好みでした。

芯の硬い音が出ます。

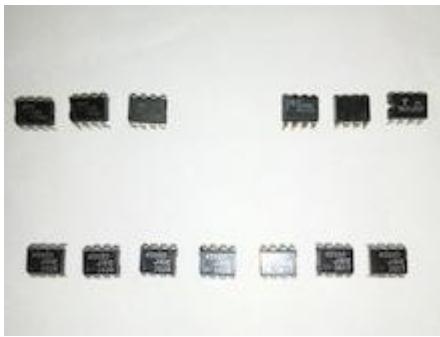
OPアンプについてですが、以前艶ありJRC4558Dを50個ほど持ってた時期がありまして、ソケットを使って1個ずつ調べた事があります。

その中で良いと思えたのは十数個しかありませんでした。

更にその中で「当たりだ」と思えるのはたった1個だけ。

それだけOPアンプって個体差が激しいのです。

現在はこれだけ ↓



上段は左から銀ネジSD1に付いてたNEC製艶ありC4558Cが2個、日本製SD1に付いてたNEC製艶無しC4558C、オリジナルTS808最初期に付いてたマレーシア製第9週目のRC4558P、同じくJRC製艶あり4558Dの0番台(何度も付け替えて消えてしまった)、オリジナルTS9シルバーラベルに付いてたTA75558Pです。

長く交換作業をしてわかった事は、出音は1つの部品ではなく全ての部品の組み合わせで決まるという事。
そして、ハンダの付け方とハンダ量がとても重要であるということです。

古い製品で長く通電してきた物は、シャーシでも音が変わります。

この事を知って、SHIGEMORIさんのエフェクターはシャーシにこだわってる理由が理解できました。

ノイズだけでなく音質に影響がでるという事です。

チューブスクリーマーも奥が深いですが、SD1も同じくらい奥が深いエフェクターです。

こんな機材弄ってばかりじゃなく、もう少しギターが上手くなれるように、、、練習しないとな。。。 (汗)

さあ明日はDONJOV рのスタジオリハ！

気合い入れていこう！

どのSD1を使おう～♪